令和7年度　9号　　宇都宮市立峰小学校

♪　みんなにこにこ！笑顔でつながる　おてつだい♪

チームみねっぴ～の　とくべつしえんだより

「自分のよさ」を　いかせますように

～　一人一人が　「自分のよさ」に気付き，互いをいかし合える共生社会の一員となるために　～

寒さに耐えながらも，小さな蕾を付けている樹々から，元気をいただく今日この頃です。

さて，今年も残すところ，あとわずかとなりました。

子供たち一人一人が，それぞれのペースで，大人への成長ステップを歩み続けております。

子供たちにとっては，学校生活だけでなく，ご家庭や地域での生活そのものが，「経験から学ぶチャンス」かと思います。子供たちが，日々「何を思っているのか。」「どのようなことに困っているのか。」「これからどうしていきたいのか。」「そのために，今日できそうな小さなことは。」など，それぞれの発達段階に応じた対話を重ねながら，子供たち自身が，よりよい自己決定ができますよう，皆さんで応援していきたいですね。もし，うまく伝えることが難しい場合には，「もしかしたら，〇〇ってことかな。」等，さり気なく気持ちを代弁したり，「〇〇と△△が選べるよ。どっちを選ぶ？」など具体的な選択肢を示したりして，よりよい自己決定ができる小さな成功体験を大切にしていきましょう。ともに互いのよさをいかし合える共生社会の一員をめざして…♡

一人一人が大切な存在であることに気付かされる　おすすめ本です！　親子読書タイムに，いかがでしょうか♡

【大まかなお話の内容です】

インドの水くみ人は，ふたつの壺をもっていました。天秤棒の両端にそれぞれ壺をさげ，首の後ろで肩にかついで彼は水を運びます。壺のひとつにはひびが入っています。もうひとつの完璧な壺が，小川から御主人さまの家まで，一滴の水もこぼさないのに，ひびわれ壺は，水くみ人が水をいっぱいいれてくれてもご主人様の家に着くころには，半分になっているのです。完璧な壺は，いつも自分を誇りに思っていました。なぜなら，彼がつくられたその本来の目的をいつも達成することができたから。ひびわれ壺は，いつも自分を恥じていました。

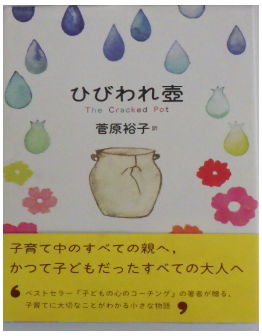
・・・中略・・・

すっかりみじめになっていたひびわれ壺を気の毒に思い，水くみ人は話しかけます。

「これからご主人さまの家に帰る途中，道端に咲いているきれいな花を見てごらん」

天秤棒にぶら下げられて丘を登っていくとき，ひびわれ壺は，おひさまに照らされて美しく咲き誇る道端の花に気づきました。

「道端の花に気づいたかい？花が君の側にしか咲いていないのに気づいたかい？ぼくはきみからこぼれ落ちる水に気づいてきみが通る側に花の種をまいたんだ。そしてきみは毎日，ぼくたちが小川から帰る途中水をまいてくれた。この２年間，ぼくはご主人様の食卓に花を欠かしたことがない。きみが，あるがままのきみじゃなかったら，ご主人様はこの美しさで家を飾ることはできなかったんだよ」（原文より）



ひびわれ壺
菅原裕子：訳（二見書房）

この本では，インドに伝わるお話を翻訳された菅原裕子さんが，子育てに戸惑われている方々に「かつて子供だった大人へ」と温かなメッセージを綴られています。子育てに悩み戸惑う日々に，ふと立ち止まり，「たいせつなこと」を確かめられるような一冊です。やさしく豊かな色彩にも癒されます。峰小学校の図書館にもあります。寒さ厳しい折ですが，温かなぬくもりとともに親子タイムを楽しまれてくださいね。